

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol. 68

June 2013

「巻頭特集」

一人ひとりを輝かせる教育。





学生、生徒、園児を 中心に考える教育へ。



学校法人常磐大学は、建学の精神の下、心の通った教育を展開してきましたが、時代が大きく変化する中で、いま一度足元を見つめ直し、教育力の充実を図ろうと考えています。

言うまでもなく学びの場の主役は子どもたちであり、生徒、学生たちです。

2013年春より新しい視点を導入しながら、

今まで以上に、一人ひとりを大切に育て上げる教育を実践します。



University
Junior College

大学・短大

100年余りの伝統を生かしつつ、
21世紀の社会を担う人を育てるために
一人ひとりの夢をかなえる教育を行います。

21世紀社会を担い、 生き抜いていく対話力を養う

森学長 本学の創設者、諸澤みよが「対」の個人指導に重きを置いていたことをご存じですか。この指導法により、指導者と生徒との間に個人的交流が濃くつくられ、常磐は面倒見が良いという評判にもつながっていたようです。常磐には、100年余りにわたり、この伝統が受け継がれています。この伝統を生かしつつ21世紀の社会を担う人材育成を目指して、本学は新しい一歩を踏み出そうとしています。

では21世紀の社会とはどんな社会でしょうか。グローバル化は当然として、私は対話する力が問われるディベート社会だと考えています。人もモノも情報も、国境を越えて移動する中、国籍や人種などの意識は薄れていくはずですが、そうした社会で最も必要とされる力は、やはり外国語の能力を含めたコミュニケーション能力です。そこで、今まで以上に教員と学生が対話の中で学ぶ授業を充実させようとしています。

足立 対話型の授業の魅力はゼミで実感しています。ゼミは少人数の教室で、自分とは異なる考え方や、価値観を知り、社会に出た際に必要とされるコミュニケーション能力を培うことができず。中でも、自分の考えを相手にうまく伝える力を鍛えるには発言することが大事だと思います。

森学長 足立さんの言う通り、学んだ知識は頭の中にあるだけでは意味がなく、アウトプットすることが大切です。ね。今後はゼミだけでなく、できる限り多くの授業を対話型に切り替えていきたいと思っています。教員が知識を提供する講義型の授業も基礎的な知識を学ぶ段階ではもちろん大事ですが、社会でいま起きている問題を教室に持ち込んで、それぞれが意見を発表し、そして、なぜ、そう考えるのかを論理的に述べることができる人材を育成することが目標です。

足立 対話型の授業を通して身に付く「考える力」は社会に出てからも役立つと思つので、期待しています。

澤島 発言の機会が多い授業は準備も必要ですし、緊張するけれど、コミュニケーション能力が高められることは確実です。



国境や言葉の壁を越えて、語り合うための教養を重視

森学長 また、グローバル社会で対話する際に欠かせないものが広い意味での教養です。専門分野の知識を自分なりに展開しようとするには、芸術や文化、人間心理や哲学など教養という基盤の助けが要ります。

澤島 短期大学には現代教養講座があり、私は「思索と思潮（宮崎アニメ論）」「心理学」「企業と経営」などを履修しました。

森学長 幼児教育保育学科は実習も多く、なかなか大変だと聞いていますが、

澤島 それでも、保育の専門分野では学べない幅広い視点を得ることが新鮮でした。興味をひかれる先生の授業は記憶も鮮明で、とても楽しく学ぶことができました。

森学長 楽しいと思える。それは素晴らしいことだと思います。

足立 私も学部の総合科目から興味のある科目をいくつか履修しました。中でも「芸術の世界」では、以前から関心があったヨーロッパの絵画に対する理解を深めることができました。



問題解決力を鍛えるプロジェクト型学習を導入

森学長 先ほど、社会で起きている問題を教室に持ち込みたいと申し上げましたが、その反対に学生が社会に飛び込んでいく学びも、これからの大学・短期大学に必要ではないでしょうか。地球規模の課題や地域の課題など、21世紀社会に特有の困難が待ち受けている、重要なのは問題解決力です。これを身に付けるために、実践的な「プロジェクト型学習」を取り入れ、企業や自治体とのコラボレーションなどを、どんどん行っていきたいと思います。

澤島 プロジェクト型とは違うかもしれませんが、昨年経験した実習はまさに現場で学ぶ科目でした。最初は戸惑うことも多かったのですが、2回目、3回目と回を重ねるごとに、子どもたちと触れ合えるようになって、特に3回目の実習は幼児から学齢期の子どもたちまで幅広い年齢層の子どもと「ミニ二ヶーション」することができ、手応えを感じることができました。

森学長 貴重な体験をしましたね。私も常磐大学幼稚園の入園式でありさつをしました。大学生を相手にするときとは勝手が違って戸惑いました（笑）。専門的な知識を持って現場に出ることで澤島さんは実践的な力を身に付けたのでしょうか。

地域に軸足を置き、地域とともに成長する大学へ

森学長 今、社会で求められている「知」は、「知っている知」だけではなく、「使える知」です。21世紀は、持っている知識を使って、何ができるかが問われていると言えるでしょう。例えば、健康栄養学科の学生たちが取り組んだ地域フ

ランド和菓子の開発プロジェクトのように、地域に軸足を置いて、地域の発展に貢献する場をたくさん設けたい。現実の課題に挑み、その解決策の実現に向けて行動することで、学生の皆さんは多くのことを学べるはずですよ。

足立 現在行われている地元との連携がもっと発展して、地域に欠かすことのできない大学になれるといいですね。

森学長 お二人は学生生活を充実させるポイントをどのように考えていますか？



澤島 有理 (左)
常磐短期大学
幼児教育保育学科2年

足立 琴美 (中)
常磐大学
人間科学部コミュニケーション学科4年

森 征一 (右)
学長
理事長



足立 自分で考えることを大切にし、やりたいと感じたこと、できると思うことは進んで試すことだと思います。その点、常磐大学は自分の興味ある分野を意欲的に学ぶことができ、自信を高めることのできる環境があります。

澤島 私も、少しでもやってみたいと感じたことはどんどん挑戦することだと思います。学友会会長としての活動も、初めてで分からないことばかりですが、イベントが成功したときの達成感は格別です。

森学長 皆さんの意欲が存分に発揮できる環境を整え、常磐に入って本当に良かったと思ってもらえるように、学生一人ひとりの能力を伸ばし、輝かせ、そして一人ひとりの夢をかなえる教育をお約束したいと思っています。お二人も、ぜひ残りの学生生活を充実させ、新しい大学づくりの力を貸してください。

どのような時代でも「自分の力で生きていく実力を身に付けること」それが本校の教育の基本です。



木村 莉奈 (左)
3年 小櫃 重秀 (右)
小櫃 校長

生徒の希望や個性に寄り添う教育がモットー

小櫃校長 常磐大学高等学校の特色の一つに、生徒の進路希望に沿ったきめ細かい指導があります。3年次からは特進コースと進学コースA(文系)B(理系)、常磐大学コースに分かれて、進路達成をサポートしています。その中で常磐大学コースの生徒には、大学の教授による週1時間の講義「大学特別講座」も実施しています。大学の授業を分かりやすく構成している授業で、10学科のそれぞれの魅力を知るとともに、自分にふさわしい進路を考える材料にもなっています。

木村 私も今年、受講します。どんな授業が受けられるのか、今から楽しみです。

小櫃校長 期待してくださいね。また、本校は生徒一人ひとりに寄り添う教育をモットーにしています。それぞれに個性があり、異なる希望を持って学んでいる生徒に寄り添い、希望をかなえる支援を目指していますが、木村さんがそれを実感することはありますか？

木村 先生たちが、生徒のがんばりをよくほめてくださることでしょっか。さりげなく見守られているという安心感があります。進路の相談などにも親身に応えてくださるので、気軽に相談できます。

小櫃校長 そつですね、自分から行動する生徒を支えることは教師の大切な

仕事です。本校は自分で考えるということを重視していますが、自分が生きているこの時代や社会を把握した上で、自分にはどんな強み弱みがあるかを知り、だからこういふ道へ進みたいと決断できるように、自分で考えて、進んでいける力を育てたいと思っています。その環として今年から「スケジュールノート」も始めました。

木村 スケジュールノートは、自分の立てた計画に沿って行動する姿勢を学ぶものだと思っています。最初は「書いていいのかわかりませんが、書き始めてみると、行動を振り返り、次に生かせる」と気付きました。

小櫃校長 計画して、振り返って、もう一度計画を立てていく。そついう習慣を根付かせたいと思っています。文字で残すことや振り返ることで次の自分を考える力になることを期待しています。戸惑いはあると思いますが、ぜひ続けてみてください。

教育の原点に立ち返って一人ひとりの輝きを引き出す

小櫃校長 本校の校訓は「頼れる自分になる」「正しい自分になる」「豊かな自分になる」の三つですが、今年はその原点に立ち返って、あらためて、生徒たちに大きな未来への道を見せたいと



思っています。自ら進んで学習し、基本的な生活習慣から規則正しく行動をすることそして、人生の中でも最も多感で大切な時期だからこそ、たくさんの人と出会い、芸術に触れ、感動の多い学校生活を送ってほしいですね。

木村 私は高校では生徒会に入りたいと思って入学しました。理由は生徒会活動にかかわることで学校の役に立ちたいと思ったからです。中学生のときは人見知りなタイプでしたが、生徒会の活動を通して、役目を果たす責任感や、人前でも恥ずかしがらずに話せる自信を身に付けることができ、成長を感じています。

小櫃校長 頼もしい生徒会長ですね。本校の母体となっている学校法人常磐大学は、幼稚園から中等教育学校、高校、短期大学、大学、大学院まで整った教育機関であり、地域や社会にも大きな役割を果たしてきました。本校には、こうした伝統と学ぶ機会の充実がしっかりと受け継がれています。目指しているのは一人ひとりの能力を伸ばし、一人ひとりの輝きを引き出す教育です。自信と誇りを持って常磐大学高等学校の生徒としての日々を送ってください。

木村 はい、将来のことを考えながら、高校生活を満喫したいと思います。

人間性を高め、発想力や語学力を養い
6年間を通して二人ひとりの能力や才能を
大切に伸ばす教育を実践します。

6年間一貫体制だから
できる充実した教育

山田校長 智学館中等教育学校は開校から6年目を迎え、初めて卒業生を送り出す年度になりました。6年間切れ目なく学習や生活に取り組めることは大きなメリットだと思えますが、安達さんはどう感じていますか？

安達 5年間一緒に過ごしてきた仲間と一緒なので、安心して学べます。今年は選択科目が多いのですが、お互いに教科の情報を交換して、次の学期の参考にしようと思っています。



安達 諒子 5年次 (左) 山田 隆士 校長 (右)

安達 「オールコミュニケーション」の授業は

山田校長 本校では毎日の授業を通してグローバルマインド、サイエンティフィックマインド、ソーシャルマインドの3つを養えるように意識しています。例えば、グローバルマインドで言うと「英語はできてあたりまえ」というスローガンで独特の教育を展開していますね。

3つのマインド養成
英語教育や理科教育を重視

山田校長 4年次生以降は将来の目標に向けた学びができるように、選択科目を増やしています。また、4学期制も本校の特徴です。学習評価をきめ細かく行うことで生徒の成長を確かめながら、もしつまずいたとしても早めに解決することができそうです。

安達 私は数学が苦手なのですが、授業で分からなかった点は先生にすぐに質問しています。

山田校長 これからもどんどん質問に行ってください。

すべて英語で行われています。また、イングリッシュネイティブでは決められたテーマの下で時間内に自由に英語で討論することができます。

山田校長 なるべく自分の言葉で話すよう意識することで、英語力と同時に、内容や表現を選ぶ判断力も養われます。ディベートの能力もかなり高まっているはずですよ。

安達 身に付けた力を試す場として「英語インタラクティブフォーラム」に毎年2名代表が参加しています。私も2回ほど出場しました。

山田校長 実験・観察を重視している理科教育も、6年間一貫教育だからできることですね。

安達 器具を使った実験がたくさん体験できるので理科の授業は大好きです。智学館は設備もきれいで、勉強に集中できるので、自習スペースがもつとたくさんあるといいなと思っています。

山田校長 「自学自習できる人」は目標とする人材像の一つでしたから、その言葉を聞いて頼もしく感じます。自習スペースも徐々に増やしていきますので、これからの2年間をさらに充実したものにしてください。

丈夫な体をつくり、心を育て、
楽しく表現できる資質を養う。
これが本園の目指す教育です。

社会の要請に応える
幼稚園であるために

教育界が抱える問題は近年ますます複雑で多様なものになっていきます。一方で地域社会等の教育力が低下していることもあり、幼稚園の教員に寄せられる期待も「層高まっています。本園では、そうした要請に応えるため、子どもたちと教員、教員と保護者の信頼関係をしっかりと結ぶことを心掛けています。その上で、今年度は明るく元気な子どもがあふれる常盤大学幼稚園を目指し、「体づくり」「心づくり」「考える力づくり」に取り組みます。

地域や大学・短期大学との
交流を深める

子どもたち一人ひとりが主役になって楽しく過ごせる園にするためには、教員の資質の向上も大切です。そのためにも教員同士の意見交換を活発に行い、良いところは伸ばし、改めるべき点は改善しながら、共により良い園をつくるという意識を共有したいと思えます。また、幼児教育を専門とする大学・短期大学の先生方や学生の皆さんとの交流を「層深め、保護者・地域の方々のご理解ご支援を賜りながら、丈夫な体をつくり、心を育て、楽しく表現できる資質を養っていきたくと考えています。

変わらぬ教育の基本は
「知」「徳」「体」を
育てること

小中学校、養護学校などで長く教育に携わってきた経験から言えることは、どれだけ時代が変わっても教育の本質は変わらないということです。それは「知」「徳」「体」の3点です。常盤大学幼稚園でも、この3つを常に意識して、健やかな体をつくり、思いやりなどの心を育て、生きていくための力を養い、教育目標の実現のために日々努力していきたいと思っています。



中崎 啓子 園長

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

智学館

「スポーツ&ホビー」の 発表会と合唱コンサートで 皆さんに練習の成果をご覧いただきました。

毎週水曜日の5・6時限目に行われている「スポーツ&ホビー」と合唱コンサートの発表会を、2013年3月13日、智学館中等教育学校内West Gymで行いました。「スポーツ&ホビー」の発表会では運動系、芸術系の各講座の担当教員を中心に、生徒たちが一年を通して取り組んできた技や練習の成果をいかに発揮してくれました。また、合唱コンサートでは1年次から4年次までの全クラスが、練習の成果を十分に表現し、素晴らしいハーモニーを聴かせてくれました。どのクラスも全員が心一つに合わせ、クラス担任とともにすべての生徒が達成感と感動を味わえる行事となりました。来年の「スポーツ&ホビー」と合唱コンサートにもぜひご期待ください。



短大

新入生歓迎クラスマッチを実施。 競技を通して、学科の交流が 一気に深まりました。

幼児教育保育学科では、新入生と在学生の交流を目的に、2013年5月7日、新入生歓迎クラスマッチを実施しました。種目はドッチビー（ドッチボールのボールを布製のディスクに変えたゲーム）。これまでの新入生歓迎オリエンテーションは学生ホールでティーパーティーを開いていましたが、体育館を使って競技を行うのは今年が初めての取り組みです。また、今回は学生とともに教員も参加し、お互いに交流を深める有意義な時間を過ごすことができました。体育館には出場8チームの声援と歓声がこだまし、熱気あふれるオリエンテーションになりました。優勝チームには学長からトロフィーと副賞が贈られ、メンバーの充実感に満ちた笑顔が印象的でした。



大学

第1回となる「水戸の梅まつり・梅酒大会」の 大会運営ボランティアに 本学学生が参加しました。

2013年3月8～10日に開催された「水戸の梅まつり・梅酒大会2013」。これは、経営学科の学生たちが2011年度の「水戸ブランド構築事業プロジェクト」で発表した「水戸の梅酒を利用した新たなイベント」のアイデアがきっかけとなって実現したものです。参加した経営学科と人間科学部、コミュニティ振興学部の学生30名は、場内の案内や行列整理、試飲係などで大活躍。大会主催者からも「学生の皆さんに本当によく働いていただいた」と感謝の言葉をいただき、学生たちはそれぞれに「形は違うが提案を基にしたイベントが実現され、協力できて光栄」「水戸の魅力を伝えようと接客をがんばった」「地域の活性化イベントに貢献できてうれしい」と手応えを感じた様子です。





高校

2年生の3月に行われる修学旅行。
3泊4日の日程は天候にも恵まれ
沖縄の美しい自然と戦争の記憶、伝統文化を学びました。

水戸ではまだ春も浅い3月でも、沖縄は暖かい！今年も2年生が3泊4日の修学旅行に行ってきました。1日目は平和祈念公園で戦争体験者の方から貴重な「戦争体験講話」を聴き、平和の尊さを感じました。2日目は、沖縄伝統のサーターアンダギー作りや赤瓦漆喰シーサー作りなど沖縄の伝統文化に触れ、自然体験ではシーカヤックなどマリンスポーツで沖縄の海を満喫しました。3日目は班ごとに立てた計画に沿って、終日タクシー班別研修。自分たちだけの沖縄を巡りました。4日目は壮麗な首里城・守礼の門から正殿へと進み、琉球王国最大の建造物を見学し、琉球の歴史と文化を学びました。4日間を通して素晴らしい天気にも恵まれ、最高の思い出をつくることができました。



大学

2013年3月2日に開催された「第8回夜・梅・祭」で
学生有志のチームが考案した
オリジナル「夜梅おみくじ」を販売しました。

「夜・梅・祭」は、水戸偕楽園と常磐神社で開催される一夜限りのお祭りで、第8回となる今年は3月2日に開催されました。夜梅祭を主管する水戸青年会議所から依頼を受けたのは、人間科学部石田ゼミの学生有志。1月後半からミーティングを重ねてアイデアを練った「夜梅おみくじ」は、梅の花をかたどったものに仕上がりました。運勢のほかに夜梅祭の情報を記載し、裏面には願い事を書くスペースが。来場者が思い思いの願い事を書いて、梅の木に見立てたボードに貼ることで、梅が満開になっていくという趣向でした。また、子どもたちにもおみくじを楽しんでもらうため、大人用と子ども用の2種類を用意し、イラストを添えるなど、さまざまな工夫を凝らしました。



大学

栄養教諭を目指す17名の学生が
水戸市立城東小学校の給食の時間に訪問。
手作りの教材などを工夫し、食教育を体験しました。

人間科学部健康栄養学科の学生に、「食教育の体験」の場を提供してくださったのは水戸市立城東小学校の皆さんです。2013年2月13日には11名、同じく21日には6名の学生が、吉野佳織准教授の指導の下、ペアを組んで1年生から4年生の各学級を担当。食事前に、用意した手作りの教材やクイズなどを使って、ミニ食育指導を行いました。指導を終えた後は子どもたちと一緒に給食をとり、その後、給食室を見学して、副校長より「児童と食について」の講話をいただきました。短時間ではありましたが、学生たちにとっては、将来の目標を実践的に学ぶ貴重な機会となりました。



幼稚園

2013年2月19日、待ちに待った収穫祭を迎え
年長組の子どもたちが、大切に育てたお米を炊いて、
みんなでそのおいしさをかみしめました。

収穫祭は、年長組の子どもたちが大切に育てたお米を食べる、楽しいイベントです。子どもたちは、お米を研ぐ作業や、お米を炊く作業など、最後まで全員でがんばりました。通園バスの運転手さんたちが手際よく釜に火をつけてくれて、あとはしばらくの我慢。大きな釜で炊いたご飯は真っ白でツヤツヤ、いい香りがしました。いただきますの声をそろえて食べ始めると、かめばかめほど甘みが広がるおいしさに、「今までの中で一番おいしい!!」という声も聞かれました。子どもたちにとっても1年間かけて育てたお米の味は格別だったことでしょう。これを機会に、食べ物への感謝の気持ちを忘れず、大切に食べよう！と全員で感じ・学ぶことができた一日となりました。

されました。演目は第1部が「アヴェ・マリア〜ルネッサンスから現代まで〜ゾルターン・コダーイ合唱曲集」、第2部が創作音楽劇「エルフィーの魔法の3日間」、そして、第3部が女声合唱曲集「光と風をつれて」。曲集ごとに違う声の表現や歌いながら踊る難しさ、外国語を覚える苦勞など、困難を乗り越えて迎えた本番では、練習の成果を存分に発揮。温かい拍手に応えるためにも、2回、3回と回を重ね合唱部の伝統をつくることが今後の目標です。



大学・短大

2012年度秋の学長賞・学長奨励賞授与式が行われました。

2013年3月15日、2012年度秋セマスタの常磐大学・常磐短期大学学長賞および学長奨励賞の授与式が執り行われました。今回、表彰されたのは、学業成績優秀者をはじめ、あさ川製菓との共同プロジェクト参加、政策提言コンペで三郷学大賞受賞、特定の資格試験合格、継続的なボランティア参加など、高い評価を得た26件、58名の学生たちでした。森学長より賞状が手渡されたときの、ひととき誇らしい表情が印象的でした。



高校

劇団四季の『ライオンキング』鑑賞会と都内近郊の大学見学を行いました。

常磐大学高等学校では、「芸術鑑賞会」や「校外学習」など、教室の外で学ぶ機会を豊富に設けています。今回は2013年3月8日、1年生の全クラスが早朝からバスで首都圏に向かい、都内近郊の大学を見学した後、劇団四季の『ライオンキング』を鑑賞しました。大学見学では、施設見学や模擬授業、学生食堂での昼食などを体験し、今後の進路について参考になる情報をいただきました。続く午後には、お待ちかねの『ライオンキング』の鑑賞です。本物の演劇の迫力に触れ、キャストの皆さんの迫真の演技に魅了された2時間半となりました。



高校

2013年4月7日、吹奏楽部が第23回スプリングコンサートを開催しました。

当日はあいにくの悪天候でしたが、会場となったひたちなか市文化会館大ホールには、熱気あふれる吹奏楽の音色が響き渡りました。第1部のクラシックステージでは2013年度吹奏楽コンクールの課題曲やオペラ・バレエの名曲を演奏しました。第2部のポップスステージでは映画やアニメ音楽、流行曲の演奏によって客席からも拍手が湧き起こり、一層盛り上がりを見せました。小口智さん(3年)は「このような機会を与えてくださった皆さまに心から感謝し、この感動を決して忘れず、次のステップへと進んでいきたいです」と話していました。



大学

「愛と傷つきやすさと被害者学の共同セミナー」の第6回研究会が開催されました。

2013年2月17日、茨城大学人文学部「愛と傷つきやすさの研究会」と常磐大学国際被害者学研究所の共催により、第6回共同研究会が開催されました。今回のテーマは「ドメスティック・バイオレンス(DV)」。まず国際被害者学研究所のジョン・ドゥーウィッチ所長がDVについて被害者学の視点から解説した後、4名の研究者らが、DV被害者支援の現状と課題、虐待とDV被害からの心理的回復、若者のデートDVの実態、また、移住女性のためのエンパワーメントに関する発表を行いました。約70名が参加し、活発な意見交換が行われました。



高校

常磐大学高等学校の新校舎建設予定地で、地鎮祭が執り行われました。

地鎮祭とは、建築などの工事を開始する前に、その土地の神(氏神)を鎮め、土地を利用させてもらうことの許しを得る神道の祭儀です。2013年1月23日の式典には校舎建設の関係者が列席し、工事が安全に行われ、校舎を末長く利用できるよう、祈願しました。新校舎は、24の普通教室と2つの選択教室に加え、多目的に利用できる3つのフォーラムや生徒ラウンジを兼ねた2つのミーティングルーム、その他CALL Labo、進路指導室、自習室など最新の設備を備え、生徒の自主的活動を全面的にサポートすることができます。完成は2013年度末を予定しています。



幼稚園

目標に向かって練習する、そのプロセスが大切。なわとび大会、がんばりました！

冬の寒さに負けず、かじかんだ手を温めながら、なわとびを練習してきた年中、年長さんが2013年2月12日、「なわとび大会」本番を迎えました。年少さんも応援してくれる中、一人ひとりが記録に挑戦！自分の目標を達成しようと表情はいつにもまして真剣でした。新記録に喜ぶ子、緊張から思うように跳べなかった子と、結果はそれぞれでしたが、目標を立て、それに向かって練習を積み重ねた過程そのものが、かけがえのない経験になったことと思います。



智学館

合唱部の生徒自らアイデアを出し合い、つくり上げた合唱コンサート。

合唱部の記念すべきファーストコンサートが、2013年3月29日、茨城県総合福祉会館にて開催



大学

**2013年2月23日
ホームカミングデーに
懐かしい顔が集まりました。**

「常磐大学国際学部ホームカミングデー Class of 2001/2002」が行われ、卒業生13名、教員8名が参加して、楽しいひとときを過ごしました。今回のホームカミングデーは国際学部としては2度目となります。国際学部有志の教員5名が実行委員となって企画・準備にあたりました。会場には参加できなかった卒業生や退職された専任教員からのメッセージとともに、現在の国際学部の活動などが展示され、今の常磐大学にも目を向けていただく機会となりました。



幼稚園

**「おには～そと!!」「ふくは～うち!!」
園内に元気な声が響いた
豆まきの集い。**

2013年1月31日、一足早く節分や豆まきについてのお話を聞きました。「おなかのなかにおにがいる」というスライドを見ているときには、遊戯室内がしんと静まりかえり、みんな、お話に聞き入っていました。みんなのおなかの中にはどんな鬼がいたのでしょうか。その後、各クラスの教室に戻って、年の数+1の豆をおいしくいただいた後は、いよいよ豆まきです。「おには～そと!!」「ふくは～うち!!」と元気な声が幼稚園に響き渡っていました。今年も1年間子どもたちが健康に過ごせることを願っています。



幼稚園

**右を見て左を見て、もう一度右を見る。
実際に練習したり、役立つ知識を
学んだ交通安全教室。**

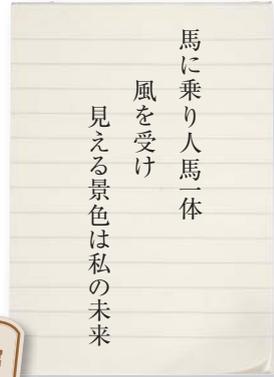
2013年1月29日、水戸警察署の女性警察官を招いて、交通安全教室を行いました。遊戯室内の模擬道路では、実際に横断歩道を渡る練習をしました。おうちの方と歩くときには必ず手首を握ってもらうこと、お店の駐車場などで車から出るときは必ずおうちの方と一緒に降りること、また、子どもを助けてくれるお店には茨城県警察のマスコットキャラクター「ひばりくん」が貼ってあるということも教えていただきました。最後に、一人で道路を渡ってはいけない、知らない人や少し知っているだけの人に付いていけないという約束をしました。



智学館

**智学館テニス部が
第18回つくばカップで
男女ともに優勝! 関東予選にも期待。**

つくばカップとは、毎年高体連テニス専門部の理事校を中心に行われる団体戦形式の大会です。今年で18回目を迎える今大会には男女それぞれ16校が参加し、つくば市北原にある北部公園テニスコートにて3月26日に男子の試合が、3月28日には女子の試合がそれぞれ行われました。昨年度の県大会優勝校は出場していないものの、智学館テニス部は初出場ながら男女アベック優勝という結果を残すことができました。次に行われる関東予選もこの勢いそのまま勝ち進んでいてもらいたいと思います。



馬に乗り人馬一体
風を受け
見える景色は私の未来

智学館

**小嶋ひかるさんの詠んだ一首が
茨城新聞ハイスクール文芸
最優秀賞を受賞。**

茨城新聞ハイスクール文芸の2012年度入賞者が決まり、智学館中等教育学校5年次(受賞時は4年次)の小嶋ひかるさんが見事最優秀賞を受賞しました。2012年度のハイスクール文芸には県内9校の高校生が応募した中から108首が掲載され、さらにその中から優秀賞4首と最優秀賞1首が選ばれた受賞です。以下は受賞の声。「受賞作は風を切って馬に乗っているときに思いつきました。(中略)自分ができないと思うと馬も止まっています。馬から学んだたくさんのお話を、これからの未来に生かしていきたいです」。



大学

**常磐大学心理臨床センター主催の
講演会で発達支援・教育支援を
レクチャー。**

2013年3月3日に開催された公開講演会に講師としてお招きしたのは、慶應義塾大学文学部心理学専攻教授で、臨床心理士・臨床発達心理士の山本淳一氏。「明日からできる応用行動分析による発達支援・教育支援」という演題で、応用行動学に基づいた発達支援方法、教育支援方法、行動問題解決法について解説していただきました。講演終了後は、会場を訪れた各学校の教員や養護施設関係者の方々と具体的な質疑応答を実施。脳機能障害者への支援や、支援する側のモチベーションの維持など、さまざまなテーマで意見交換が行われました。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。

2013年 イギリス研修スケジュール

日時	都市	行程
2/10(日)	東京 ロンドン	大学に集合 成田空港発(11:20) ヒースロー空港着(15:00) チチェスターへ移動
2/11(月) 3/1(金)	チチェスター	ホームステイ先へ チチェスターカレッジにて語学研修 (ホームステイ先泊)
3/2(土)		英国国内研修 コッツウォルズの村見学 ストラッドフォードへ移動(ホテル泊)
3/3(日)	ストラッドフォード	アン・ハサウェイの家見学 シェイクスピアの生家見学 ウォリック城見学 (ホテル泊)
3/4(月)		プレナム・パレス見学 各自テーマ別研修 ロンドンへ移動(ホテル泊)
3/5(火)	ロンドン	各自テーマ別研修 レストランにてお別れ会 (ホテル泊)
3/6(水)		ヒースロー空港発(12:25) (機中泊)
3/7(木)	東京	成田空港着(09:15)



ホームステイ先のホストファーザーはポーツマス大学の大学教授で、ホストマザーは理学療法士をされていました。マザーの手料理がとてもおいしくて、食事は楽しみの一つでした。

Spotlight 01 国際交流

海外研修の経験は失敗を恐れず発言する姿勢や積極性と行動力を磨くチャンスです。

菅野 志帆 国際学部英米語学科3年

英語を通してさまざまな国の人と交流できることに感動。もっと英語力を高めたいと意欲が湧いています。

学生時代に海外に行くことが目標でした。そして、できれば単なる旅行ではなく、自分の成長や将来に役立つ体験をしたいと思っていた私にとって、今回のイギリス研修はとても魅力的なプログラムでした。期間は約1か月で、最初の20日間はホームステイをしながら、現地のチチェスターカレッジで語学研修を受けました。お世話になったホームステイ先では、ホストファミリーや地域の人々と積極的に交流することによって、日常生活や習慣などの異文化を理解し、コミュニケーション力を身に付けようと努めました。渡英したばかりのころは簡単な言葉さえ聞きとることができず、どうしようかと思いましたが、すぐに耳が慣れて相手の言うことが理解できるようになりました。一緒に参加した友人といるときも、なるべく日本語を使わないようにしたこともあって、研修前よりもリスニング力は向上したと思います。

チチェスターカレッジでは、最初にテストを受け、決められたクラスに分かれて、スピーキングを中心に学びました。クラスには、ヨーロッパの非英語圏の国や中東から来た留学生が多く、それぞれの国の文化の違いについて学ぶ授業は非常に興味深いものでした。また、彼らはとにかく意見を述べるという姿勢が強く、間違いを恐れず発言する姿に刺激を受けて、私も自分から積極的に発言するように心掛けました。英語を母語としない者同士の会話は、苦勞することもありましたが、英語を通してさまざまな国の人と話せるということに感動し、もっと話せるようになりたいと強く思いました。

イギリスでの経験は英語力だけでなく、積極性と相手の気持ちを思いやる大切さを教えてくれました。

研修後半の5日間はホテルに宿泊し、ロンドン市内を観光したり、出発前に調べておいたところを自分たちで回りました。私はビートルズが好きで、アビーロードを訪れ、アルバムジャケットで有名な横断歩道で写真を撮るなど、貴重な体験ができました。

研修に参加した成果は、第一に英語を話すのがさらに好きになったこと。そして、協調性、積極性、行動力が身に付いたことです。言葉が通じにくい相手と話すには、自分から積極的に働きかけ、同時に相手の思いをくみ取ることが必要だからです。また、日本にいるときはあまり感じなかったのですが、離れてみて、家族や友人の大切さがよく分かり、些細なことでも感謝の気持ちを持つようになりました。自分の英語力のレベルが分かり、もっと勉強しなければいけないと思うようになったことも成果の一つです。チチェスターカレッジでは、スピーキング力の向上に効果的な英語の学習方法も学んだので、それを実践し、さらに英語力を高めたいと思っています。在学中にアメリカに行きたいという新たな目標も生まれました。イギリスの英語とアメリカの英語には、発音や単語など、さまざまな違いがあるので、そのどちらも学んで使い分けられるようになりたいと思い、今はせっせと貯金をしています。

将来は、身に付けた英語力を生かして、以前からの夢だった警察官を目指しています。人々が安心して暮らせる地域づくりに貢献しながら、日本に住んでいる外国人の手助けができればいいなと思っています。

高校生ウィークのブカツの一つ「あそびバ部」でワークショップの企画・運営を実践しました。

羽持 望 人間科学部コミュニケーション学科4年



「高校生ウィーク」は1993年に始まったイベントです。2003年からは無料カフェも始まり、高校生に限らず、来館者や地域の人々も加わり、さまざまなワークショップが行われています。

人との出会いは、新しい発想との出会い。
その新鮮な喜びを知る活動ができました。

水戸芸術館現代美術センターが年に1度行っている「高校生ウィーク」は、高校生が無料で入場できるイベントです。その中のカフェでは来場者が自由に参加できる「ブカツ」が行われていて、私たちは「あそびバ部」を企画しました。「あそびバ部」では水戸のいろいろな遊び場情報を持ち寄って高校生活をもっと楽しくすることを目指しました。私も高校生のご同世代の人がどこで遊んでいるかに興味があり、情報を共有できる活動をしたいと思ったことがきっかけです。会場ではおすすめの遊び場を「あそびバ情報カード」に記入してもらい、カードをもとに図鑑を作ったり、遊び場Mapを作ったりしました。アンケートの反応も良く、狙いは達成できたと思います。一緒に企画した茨城大学の車田彩香さんや参加してくれた高校生たち、また、アイデアで行き詰まったときにサポートくださった芸術館の方など多くの出会いに恵まれ、人に積極的に働きかけることの大切さと企画が広がっていく面白さ学びました。今後も人のかかわりを大切にし、自分にない考え方を吸収できるように心掛けたいと思っています。



- ① 専門訴訟講座②
建築訴訟 (第2版)
- ② 日向野 弘毅
人間科学部 教授
- ③ 松本克美・齋藤隆・小久保孝雄 編
- ④ 2013年3月
- ⑤ 民事法研究会

斯界の著名な研究者、東京・大阪地裁建築集中部出身裁判官が建築をめぐる紛争の法理・実務・要件事実を詳解し、最新の紛争解決指針を提示。研究者・法曹関係者必携です。



- ① 朱舜水と徳川光圀
- ② 林 和生
国際学部 教授
- ③ 林和生・李心純 編著
- ④ 2012年12月
- ⑤ 山西教育出版社

本書は徳川光圀の「賓師」として招かれた中国明末の学者朱舜水と徳川光圀との関係を主題として取り上げた研究です。今まで研究者の見落としてきた多くの点を解明しました。

常磐大学の教員が執筆した
さまざまな分野の著書を
ご紹介します。

①著書名 ②氏名・所属・職位 ③著者・編者等 ④発行年 ⑤発行所



- ① 震災・避難所生活と地域防災力
—北茨城市大津町の記録一—
- ② 松村 直道
コミュニティ振興学部 教授
- ③ 松村直道 編著
- ④ 2012年11月
- ⑤ 東信堂

本書は、東日本大震災で甚大な被害を受けた北茨城市大津町の、地震と津波による住民の被災体験、避難所の生活記録、災害を最小限に抑えた地域防災力を考察した著作です。



- ① 新 発達と教育の心理学
- ② 吉田 宏之
キャリア教育学科 准教授
- ③ 藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子 編著
- ④ 2013年3月
- ⑤ 福村出版

発達心理学、教育心理学の初学者、特に教職を目指す学生に適した入門書です。本書を足掛かりにして教育心理学への理解を深めてもらいたいと思います。



- ① 発達障害の理解と支援のためのアセスメント
- ② 室谷 直子
幼児教育保育学科 准教授
- ③ 前川久男・梅永雄二・中山健 編
- ④ 2013年3月
- ⑤ 日本文化科学社

発達に障害のある方々が自己を発揮するために、どのような支援を必要としているのでしょうか。それを知るためのアセスメントについて、さまざまな角度から掘り下げた本です。

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2013年1月~3月受け付け分]

● 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

常磐大学 2012年度卒業生一同	700,000円
竹中 治利*	470,000円
中村 和彦*	255,000円
常磐短期大学 2012年度卒業生一同	250,000円
保坂 泰夫*	230,000円
大槻 行徳*	78,000円
関 敦史*	
久松 雄大*	38,000円
坂井 和志*	33,000円
石田 喜美*	
江原 麻子*	
工藤 典人*	
関 いつみ*	
千葉 茂*	
堀口 秀嗣*	

芳名のみ公表

累計寄付金額 75,073,026円

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付し、金額は累計額を表示いたしました。

● 常磐大学における地域金融に関する教育研究の奨励

[2012年度実施事業分]

水戸信用金庫 1,446,425円

累計寄付金額 4,446,425円

● 持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動資金

常陽銀行 1,000,000円

累計寄付金額 6,000,000円

寄付のお願い

開学100周年記念事業募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。本学では諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。本学では、この制度をより充実させるため、引き続き募金の受け付けをしております。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

★寄付金の申し込みおよび問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課(寄付係)

tel: 029-232-2759 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

※寄付募集の詳細については、ホームページをご覧ください。

諸澤幸雄奨学金 奨学生決定

2013年3月22日、常磐大学高等学校における諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式が行われました。2012年度は、I種7名、II種3名の合計10名に奨学金の給付が決定。生徒一人ひとりに決定通知書が手渡されました。

information TOKIWAインフォメーション

★ 常磐大学&水戸ホーリーホック 8/25(日) コラボデー2013



大学院

★ 進学説明会 7/20(土)

大学・短大

★ 保護者会 6/15(土)

★ オープンキャンパス 6/23(日) 7/27(土) 8/11(日)

高校

★ クラスマッチ 7/2(火)~3(水)

★ オープンスクール 7/25(木)~27(土)

★ 体験入部 8/16(金)

智学館

★ 智学館カップ(体育祭) 6/9(日)

★ オープンスクール ... 6/23(日) 8/25(日)

幼稚園

★ 第1回入園説明会 7/16(火) ~みんなであそぼう~

★ 夏祭り 7/27(土)

アンケートご協力をお願い

お寄せいただいた方に、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。

- ①印象に残った記事とその理由など
 - ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど
- 皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。

※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

e-mail: Kikaku@tokiwa.ac.jp

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1



Topos vol.68 June 2013

学校法人常磐大学 広報誌 [トボス]

2013年6月発行
学校法人常磐大学 総務課広報係
〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1
Tel. 029-232-2511(代)

TOKIWA

http://www.tokiwa.ac.jp/

- 常磐大学大学院
- 常磐大学
- 常磐短期大学



- 常磐大学高等学校
- 常磐大学幼稚園
- 智学館中等教育学校



常磐大学は平成21年度
大学評価の結果、(財)大
学基準協会の大学基準
に適合していると認定さ
れました。



常磐短期大学は平成20
年度(財)短期大学基準
協会による第三者評価
の結果、適合と認定され
ました。